

令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1 令和5年度事業概要

静岡市が発注する三保松原の保全事業に対し、専門的知見をもって業務支援を行うとともに、静岡市及び静岡県からの受託事業を確実に実施することで松原を良好な状態に維持・管理した。

また、外部研修や技術提携した樹木医との共同作業を通して、松原保全に係る専門知識や実践的な技術を習得するとともに、来訪者や地元住民の三保松原への関心と保全意識を高めるため、マツ林保全に関する情報発信に努め、地域住民や企業団体によるボランティア活動を支援した。

さらに、職場体験学習の一環として清水第五中学校の生徒2名を受入れ、松原保全に関する講義やマツ苗の植替え体験実習を行った。

そして、マツ林保全の専門的な知見等を高めるため学識経験者と連携した体制を構築し、地域・行政・学識経験者との水平的協働による三保松原のマツ林保全に務めた。

2 事業別実績

(1) 受託事業 ～日常的・専門的な管理～

静岡市が発注する保全事業の業務支援及び静岡市、静岡県からの受託事業は遅滞なく実施した。

① リスク軽減事業

・ マツ材線虫病防除

伐倒駆除、薬剤散布(環境影響調査含む)及び予防剤樹幹注入の設計・監理を行うとともに、予防剤樹幹注入の施工業者に対し、適切な施工方法を指導するため現地研修会を実施した。

・ 老齢大木の樹勢回復

技術提携している樹木医とともに、老齢大木の樹勢回復に係る土壌

改良施工後の状態を検証するため、土壌改良モニタリング調査を実施した。また、公益的機能モニタリング調査及び羽衣の松周辺の老齢大木の薬剤散布と踏圧対策ルート維持の設計・監理を行った。

- ・危険木対策

マツ林の健全な育成と景観維持のため、技術提携している樹木医とともに、神の道東側と羽衣の松周辺のマツ 114 本を対象に外観診断、簡易内部診断、詳細内部診断（音波）を実施した。また、来訪者や保全活動者の安全を確保するため、遊歩道を中心に危険性の高い枯枝等の撤去及び老齢大木の支柱設置と修繕の設計・監理を行った。

② 松原再生事業

- ・景観改善

マツ林の成長率を観測するため間伐試験箇所においてモニタリング調査を実施し、効果的な密度管理目標値を検証した。

- ・森林管理

松原管理システムによるマツの個体管理をするため、今年度実施した伐倒駆除、予防剤樹幹注入、薬剤散布、樹木診断等のデータを更新した。また、三保松原の保全活動に参加するボランティア等に対し、松葉除去や除草等の指導、作業器具の貸出を行った。

- ・圃場の運用管理

三保松原圃場の施設管理、母樹の生育調査、三保由来のマツの育苗を行うとともに、管理及び育成マニュアルを随時更新した。

③ 三保松原保全提案業務

市が実施する保全事業やモニタリング調査、樹木診断等の実施結果を踏まえ、松原保全に必要な業務提案を行うとともに、業務が円滑に実施できるよう、専門的な知見をもって情報提供や支援を行った。

④ 三保モデル確立事業

- ・水平的連携モデル試行及び検証

講習会の実施や研究所の日々の活動、地域の松原保全活動を記録し、

水平的連携の現状と課題をまとめた。

・講習会の開催

「富士山世界文化遺産登録 10 周年記念シンポジウム in 三保松原」及び「静岡市環境保全推進協力会通常総会」において、三保松原の保全対策について講演した。また、「三保地区文化祭」、「三保松原の景観改善 10 周年記念イベント」において、研究所の取組み等をパネルを用いて紹介した。

・学識経験者との連携

三保由来のマツの育苗技術を確立するため、三保松原圃場にて外部講師を招き、樹木医会、地元関係者、静岡県立大学助教授、県市の職員の参加により、「さし木」と「接ぎ木」の現地検討会を実施した。

(2) 公益事業 ～財団自主事業～

地域やボランティア団体等と連携し、水平的協働による保全活動を支援した。

① 保全活動の支援

来訪者、保全団体、企業 CSR 活動など、松原保全に参加する人々の意欲を高め、効果的な保全活動ができるよう支援するとともに、「みほしるべ」から要望のあった保全活動に必要な資材等を支援した。

(3) 研究開発事業 ～財団自主事業～

マツの保全や森林生態に精通した学識経験者や静岡県森林・林業研究センターなどの関係機関と連携し、組織の専門性、知見、技術力の向上を図るとともに協力体制を構築し調査研究を進めた。

① マツに関する調査研究

枯れマツ調査の結果をもとに、マツ材線虫病に感染した疑いのある枯れマツの材辺を採取し、マツノザイセンチュウ DNA 検査による被害木の早期発見と感染経路の検証を行った。

② 適切な松原管理手法の確立

将来にわたり松原を適切に維持・管理するため、先端技術を活用した効率的かつ効果的な三保独自の管理手法について調査研究を進めた。

③ マツの圃場管理方法の調査研究

三保松原圃場において、三保由来のマツを安定的に供給できる環境を構築するため、播種、さし木及び接ぎ木について、有識者による技術指導を受け、マツ苗の栽培や移植方法について実習した。

④ マツの生育に関する調査研究

三保独自の土壌改良方法の確立に向け、施用する素材や方法を研究するため、試験区において生育調査を実施した。

⑤ 東海大学との共同研究

マツの保全及び再生に係る地域連携の在り方について検証する中、三保松原における伐倒駆除の現状についてまとめ、大学と共有した。

(4) 教育研修事業 ～経営方針（目的・目標）実現のための事業～

三保松原の持続的な保全や研究開発に必要な知識の習得、技術力の向上に努めた。

① 松原管理のための教育研修

森林保護管理（病虫害）研修、松枯れ防除実践講座、静岡県農薬管理指導士研修を受講するとともに、日本海岸林学会現地検討会に参加し、適切な松原管理に必要な基礎知識の習得に努めた。また、職員 1 名が松保護士講習会を受講し松保護士の資格を取得した。

② 樹木診断機器の操作技術の向上

高所作業車の技能講習やフルハーネス型墜落制止用器具の特別教育など樹木診断に必要な技能を習得した。

③ 危険木の診断技術の向上

危険木の確認から危険性の判断と適切な処理を迅速に行えるようアーボリスト講習を受講した。また、「三保まつしらべ」をより使い易い

アプリに改善し利用普及を図るため、ボランティア支援や各種イベントに参加した際に紹介した。

(5) 収益事業

静岡市及び静岡県からの受託事業や自主事業を積み重ねることで、組織としての実績と職員の専門的知識や技術力の向上に努め、安定した運営基盤の構築に努めている。また、樹木医による樹木点検等の補助員として、少しずつ収益を得ている。